

## 防災交流会の報告

# 身近な事例が多く紹介され、分かり易く、 実践的な、身につくお話でした

9月1日(土) 午後に、名古屋市中村生涯学習センター第三集会室で開催した「難病患者・家族・支援者の防災交流会」には、保健所や名古屋市職員の方も含め37人の参加をいただきました。

冒頭、田中泰彦愛知県議会議員から「自らも潰瘍性大腸炎患者であり、難病対策は大切に思っている」とのご挨拶をいただきました、

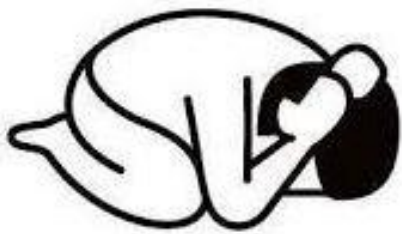
続いて、愛知医科大学看護学部在宅看護学 佐々木裕子先生から「減災への備え」をテーマに①被災、災害で要配慮者に起きたこと、②発災後を(疑似)体験してみる、③減災となる備えの3部構成でお話しいただきました。

身近な事例が多く紹介され、分かり易く、実践的な、身につくお話でした。

テーマ①では阪神大震災における死因の83.7%が家具・家屋の転倒倒壊などによる圧死・窒息死であり、「救出はほぼ住民の手で」行われたこと、東日本大震災では「障害者の死亡率が平均の2倍(2.06%)あり、聴覚障害の死亡率が最も高かった」こと、西日本豪雨では「垂直避難が間に合わず、1階で亡くなっていた要配慮者が多かった」ことなどが紹介されました。



患者・家族ができることとして「ガソリン半分に減ったら給油、ケータイ充電もバッテリー残量半分になったら充電、枕元の懐中電灯、ベッド脇にすぐ出せるスニーカー」など分かり易い例を話されました。



テーマ②では、M9.2の地震を想定して「その時」どうするかを参加者意見も混じえての進行でした。「ダンゴ虫のポーズできません」「病院に行っても『震災のけが人対応で手いっぱい、医療が必要でも落ち着いているなら帰って』と言われた」「普段から付き合いのある町内会の方が、障がい、医療用機器の音、ケアまで全部受け入れて一般の避難所で過ごせた」など、様々な状況が考えられます。

避難所のことでは「避難所でのトリアージ区分」「住民が自主的に作った名簿が役にたった」「トイレの環境整備」「寝る場所を整える」なども説明いただきました。

テーマ③では、自助・共助・公助が3本柱であり、命を守ることが最優先とされた上で

③—1 命を守る環境づくり

- ・耐震診断・耐震工事の勧め 補助金制度あり →倒壊防止
- ・玄関・ベランダ・庭・入り口付近を物置にせず通りやすくする
- ・落下物防止・家具転倒防止
- ・ガラスや鏡に飛散防止フィルム貼り
- ・ブロック塀・ガスボンベ、屋外もチェック

### ③—2 個別の避難計画、避難経路の確認

- ・避難に関する情報：勧告など 情報を得る方法は？
- ・避難する時期、避難場所と道のりの確認
- ・家から避難所までの安全な通り道はみつかりますか？
- ・災害時要配慮者の個別避難支援計画 支援者は誰？ 避難方法は？

長久手市、尾張旭市ではコンビニにAED設置

### ③—3 個別の避難。備蓄物品の準備

持ち出し物品チェックリスト

- 1) 情報収集に必要な物
- 2) 健康保持に必要な物

人工呼吸器、吸引器、酸素、栄養ポンプ、業者連絡先、薬の予備、  
栄養パック、栄養のチューブ、栄養剤・水（7日分）、注射器など

- 3) 自分を守るために必要な物
- 4) 生活用品（必要時：赤ちゃん用品）
- 5) 貴重品
- 6) 非常食（最低7日分・家族分）

### ③—4 安否確認・命を守るしくみづくり

町内会の助け合いのしくみづくり

- ・町内会独自の防災名簿作成
- ・安否確認訓練、初期消火訓練、救出救護訓練
- ・日頃の関係づくり

「できることから具体化してみましよう」と以下のようにまとめられました

- 1) いのちを守る部屋・家の環境づくり
- 2) 避難するか自宅避難か

避難方法：支援者の確保（3人？）

- 3) 避難訓練などへの参加の勧め

安否確認者の確保など、希望の「発信力」と援助を求める「受援力」の双方を発信